



本月宵鄙物語

壹

新様子
任
寄

根
寄

3154
1



傍人然つてむやうめては昇る光の尋常の月のあま
 三つよふ合せられ斗ゆり大もふとふらふらふらよ好く
 ほりて見えゆる空のをたぬまゝし高欄小押うらそ本曾
 の麻衣さらうほしう傍の人は對ひて月の周の百五十
 由旬わりとせめて見給へが今宵のやふ行りやれがさもやと
 思ひ給ふるとささささささささささささささささささささ
 梢ささささささささささささささささささささささささささ
 流るまき雲の浮る言とおひをりがささも付らんうらまど
 以らあま利。これをきて奥の方より。若れハ第三五乃無毫も
 度ぐとらるるやとらひまきがかさへ白衣黒衣の天人の紋

指をり。月御浩講まといふ物う。月日見男をまゝ人きて
 かさみ織敷みいひうらを耳うるさく傍らとやあひけん
 連歌流の中より。若むりれ月の中火勢の佳の隈も
 さうらえ時らめ終ふぬ。連らみ。異剛が斧やさささささささ
 と嘶るをもえあちて人あ何と傍らささとも。我の傍ら縁と
 やらんがらりて奔らん不死の業こそ。乾り。それとほがやくふ
 まさかこより。それも月をきて老むらこそあら。はささささささ
 をらささささささ。孫子ささささささ。果ハ此山よや持られ
 さんやうられた物宿らる癡くる。懶暮ふこそ。我ららば免れ
 がちらる。能くをこそ。盗まらと利はそれ。かささささささささ

中納言家成の家歌合
こころさうる家成の山に梢のうらむきこひの秋のよれ月
源仲正

新古今和歌集
坂上是則

雲はらや伏屋よまふるさうらうけありと見えと逢ぬ君の形

此巻この二行より雨と一く 園原山は本城の藤が深
圓といふ者は八月十五夜は月とともなはせれがし物あり
伏屋の長者とるりのほり一車 其母まがは黒が自と

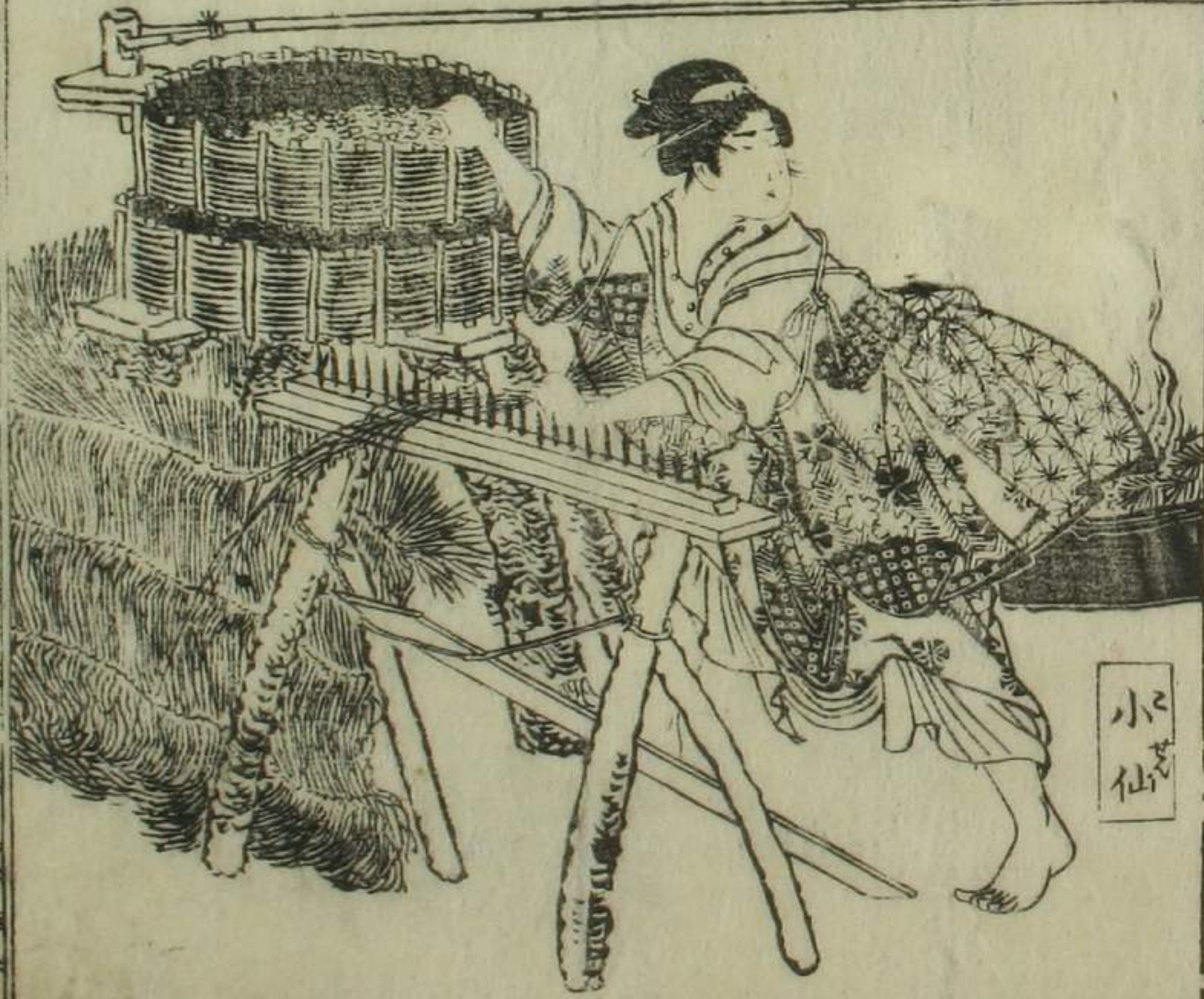
いふ長者 賞免くお女が持し漢と漢と一く 松は山の
飛屋と尋ねさせし一有といふまがら珍しき思ひの
後年ととるりなわらう 長者が子に弓をといふは秋と
むつれぬるととまことととるりまことととるり他らさる

園原山の叟



うきさうら
園原山の
木のちよろ
こがれ物
秋の夜の内

信濃道者伊麻能
 波里美智可里波
 補爾安思布麻之
 年奈沓波氣我背



小仙

黒乃自



引太

新編物語

彼兒呂等鼠也
 成奈羊波太須
 酒器浦野乃山
 尔月片與流母



必霜

那勿吾卷之二

三

光明遍照十方世界

觀於



齒物評卷之一

一

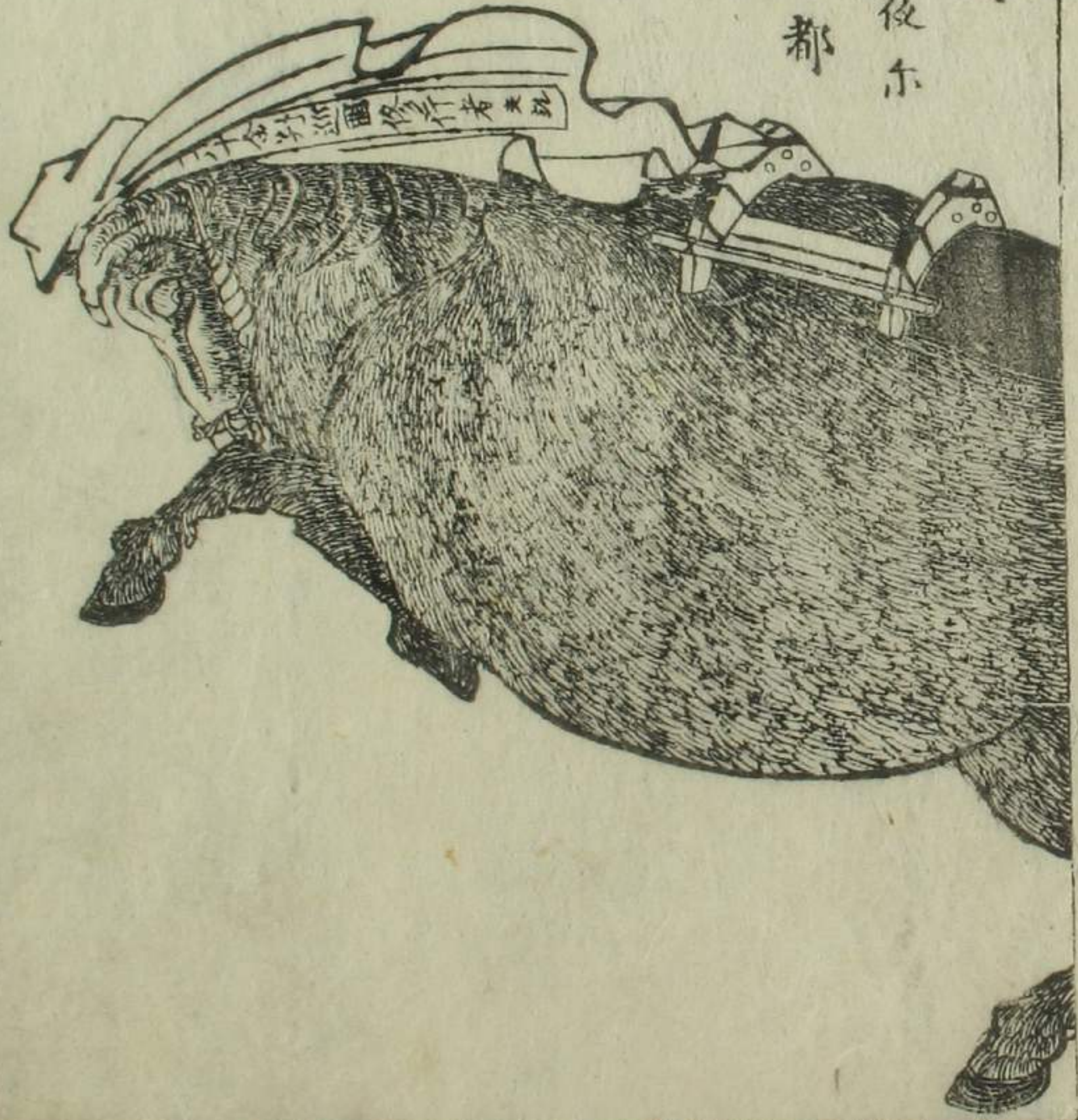
於兔虎太郎



日乃暮尔
唯冰乃山守
越流日者

勢奈能我

袖母佐夜尔
振思都



○ 本の巻 目録

- 壹 園原山の木賊薈 伏屋里の母木 松山家の古鏡
- 貳 三原野の牧狩 更級山の老桂 和隈川のさくら石
- 參 寂莫村の組紐 佐野山の終薪 岐蘆路の丸木橋
- 四 嬖倅山の蛇石 久米踏橋の埋木 埴科寺の蘆金剛
- 末の巻 目録
- 五 長者糸の亡心 浅間嶽の竈火 菅荒野の夢枕
- 六 芋井里の玉の臼 本鳥山の黒髪 尊地軍のはら荒
- 七 沓掛宿のもれ雲 蟹場地の白波 御坐湯の舞舞
- 八 木賊原の放牛 善光寺の常燈 唐猫社のおひ摺

附録 伏屋里の考證

月宵鄙物語卷一

園原山の木賊薈

江戸 四方歌垣主 大著

いま 昔 信濃國埴科郡 園原山の林に 伏屋の長者とて 執事ある者
 在り 八月十五夜に 生れし 幼名を 圓と喚ぶ 今 圓太夫とて 呼ばる
 卒に 近き翁也 其れが 祖父の代に 園原山の山賊とて 世間を 去りて
 去りて 明暮に 登りて 木の梓と 採りて 賣物の本城と 斬或時 牛酥と
 て 園原に 献りたり 終に 後と 得れり 頼酒よ えて 其の 月よ 肅きは 思ふと
 在 徑に 音来の 鈴と 保て 永久 鶴羽帝の 末に 疾かして 終るる 其子 曾平と
 いひ 名者 倅倅 癖者と 終る 思ひ 今 朝 威衛と 表へて 咽の 貴
 物も 成行 せられ 我も 業も 頼母 氣も 如何も 驛路に 近き 里に
 移住て こと 活斗 せよと 六十年 前より 里に 這入 年の 伏屋造りて 同郡

桂尾けいびの山やま早はやう。妻つまと逢あつてこの園うゑに産うまへる。妻つまもあつた女メの習なりてむす
 置おく。痛いたく物もの情なさけもなして法はふ法はふ半はん他たもなしてとる。と厭いとひ粟あは一粒ひとつぶ鳥とりはまゝあ
 事ことと嫌きらひさう。已お却かへて他たの落おち極きよくと捨すつ。烟けむり物ものと入いれ。然しかん会あつて返かへる。され
 もなむ。され。恥はぢ。恥はぢ。田た植うゑ。産うまへる。餘あまの餉かひと袖そでとてぬ
 り。傍かたわらへおれ。糸いと綿わたと様さま。引ひか。さう方かたは公こう犬いぬ。働はたらき。身みを。健たげ
 有あり。夜よ並ならび。起おけ。居ゐる。睡ね。事こととあ。び。然しかん。未ま明あ。夫おと。興き起おこ
 て。追おひ。け。身みの。責せ懲ちやう。活か計けい。平へい。曾そう平へい。終しゆう日にち。秋あき。柄へら。産うまへる。田た。細こ
 む。新あらた。諸しよ。係けい。と。お。よ。後あと。う。足あ。橙だいだい。れ。う。う。親おや子こ。口くち。さ。け。う。て
 六月ろくがつ五月ごがつの照てい震しん。も。垢あか。着き。様さま。れ。破やぶ。け。き。あ。ぬ。級きよく布ふの。帷かき。衣い。ひ。う。夏なつ月つき
 昨きのう走はる。氷こほりも。ゆ。ふ。ふ。お。の。太お。き。糸いと。て。厚あ。く。は。假かり。と。只ただ。ひ。う。ら
 宛あ。ど。あ。ら。う。武ぶ。耐た。者もの。平へい。妻つま。よ。ひ。り。さ。う。お。で。火か。も。替か。つ。け。箱はこ。の。物もの

の煙けむりも級きよくぬべ。和わ。世よ。科か。何なに。よ。思おも。ひ。回まわ。れ。今いま。な。る。か。園うゑと市いち所しよよ
 拵しよても。人ひとは。減へ。ら。ん。と。今いま。あ。う。知し。り。な。ら。ん。と。あ。も。慈あは。親おやの
 若わか。を。受う。て。尻しつ。取と。り。ん。も。を。し。然しか。れ。中なか。く。よ。捨す。つ。け。も。じ。植うゑ。科か。寺てら。に。我われ
 先せん。祖そ。の。頼たの。も。ち。う。て。然しか。も。今いま。の。住ぢゆう。僧そう。の。意い。悲ひ。告こ。げ。と。う。さ。う。と。役やく。と。も。癡ちやう
 人ひと。な。れ。お。の。老らう。法はふ。師し。と。賺う。ま。ら。う。て。身み。を。う。て。養やしやう。せ。ん。は。何なに。有あ。る。べ。し。う。よ
 骨こつ。平へい。頭かう。と。振ふ。て。め。の。負お。く。苦く。し。れ。が。て。呼た。び。と。魚いそ。く。ひ。酒さけ。の。む。し。ゆ。も
 ち。ぬ。法はふ。師し。を。活か。き。し。鬼おに。道みち。を。落お。ち。入い。れ。野の。良ら。菽しやく。を。持も。ち。よ。う。の。も。ま。ま。こ
 り。て。不ふ。便べん。な。る。こ。と。送そう。ら。ぬ。さ。う。と。毒どく。を。入い。れ。て。孩こ。の。衣い。の。う。ら。元もと。ら。大おほ。口くち。に。明あ
 て。う。く。と。笑わら。ひ。あ。ら。う。や。う。和わ。ま。の。や。う。あ。る。實じつ。は。な。る。人ひと。と。母はは。癡ちやう。今いま。も。不ふ。足あ
 とも。ふ。と。我われ。も。情なさけ。う。ぬ。園うゑ。の。何なに。も。実じつ。は。法はふ。師し。よ。ん。せ。ん。物もの。の。用もち。な。ら。ぬ。内うち。を。
 公こう。犬いぬ。の。身み。を。な。す。て。お。わ。り。も。解と。け。即すなは。ち。戻かへ。り。男おとこ。か。て。返かへ。り。今いま。の。お。の。る



信濃國水内郡善光寺參詣順路之圖相模鎌倉ヨリ行程六十八里

置手言

後の為のち言ことかき住すまうりびやくといい常平とねひら様さまと打うて滅めつゝいいれり。此この
 許こゝハ伶利うしろこゝろなる張良ちやうじやう孔明けいめいも男おとこのこゝろ小野こゝろのこゝろ小所こゝろも歌うたとととあ。つゝ
 有あらん中ちゆう賞しょうのこゝろ恨うらみひつ。此この國くにも帝みかどあるをみせ妻つまも具ぐをとて埴は科か
 寺てらもあり。如ごと法ほふ多た弁べんの女むすめられ。思おもひあらうらうて。幼こゝろ者ものといふことも
 女おんな仕し待まちし。都みやこへありまり。つゝ後のちハ豆まめ子こはあらうらうて。後のちハあらうらうて。妻つまハあらうらうて
 と載のりて市いちも物ものと賣うり。夫とハ馬うま貸かす馬うまうりて。後のちハあらうらうて。後のちハあらうらうて。後のちハあらうらうて
 あり。口くちも物ものと積つみ。庭にわもあらうらうて。後のちハあらうらうて。後のちハあらうらうて。後のちハあらうらうて
 あり。一ひと郷ごう情じやうなる常平とねひら男おとこがあらうらうて。後のちハあらうらうて。後のちハあらうらうて。後のちハあらうらうて
 つゝ。後のちハあらうらうて。後のちハあらうらうて。後のちハあらうらうて。後のちハあらうらうて。後のちハあらうらうて
 居いり。此この世よのこゝろ一ひと郷ごう集じふる酒さけ飲のむ。此この世よのこゝろ一ひと郷ごう集じふる酒さけ飲のむ。此この世よのこゝろ一ひと郷ごう集じふる酒さけ飲のむ
 あり。己おれがあらうらうて。後のちハあらうらうて。後のちハあらうらうて。後のちハあらうらうて。後のちハあらうらうて。後のちハあらうらうて

給たまふ。此この世よのこゝろ一ひと郷ごう集じふる酒さけ飲のむ。此この世よのこゝろ一ひと郷ごう集じふる酒さけ飲のむ。此この世よのこゝろ一ひと郷ごう集じふる酒さけ飲のむ
 あり。大おほ雪ゆき降ふる。且かつ脊せ門もんのこゝろ殺ころさる。此この世よのこゝろ一ひと郷ごう集じふる酒さけ飲のむ。此この世よのこゝろ一ひと郷ごう集じふる酒さけ飲のむ。此この世よのこゝろ一ひと郷ごう集じふる酒さけ飲のむ
 あり。引ひ抱かかりて。此この世よのこゝろ一ひと郷ごう集じふる酒さけ飲のむ。此この世よのこゝろ一ひと郷ごう集じふる酒さけ飲のむ。此この世よのこゝろ一ひと郷ごう集じふる酒さけ飲のむ
 あり。然しかもあらうらうて。後のちハあらうらうて。後のちハあらうらうて。後のちハあらうらうて。後のちハあらうらうて。後のちハあらうらうて
 あり。各おの雪ゆき交まりて。此この世よのこゝろ一ひと郷ごう集じふる酒さけ飲のむ。此この世よのこゝろ一ひと郷ごう集じふる酒さけ飲のむ。此この世よのこゝろ一ひと郷ごう集じふる酒さけ飲のむ
 あり。此この世よのこゝろ一ひと郷ごう集じふる酒さけ飲のむ。此この世よのこゝろ一ひと郷ごう集じふる酒さけ飲のむ。此この世よのこゝろ一ひと郷ごう集じふる酒さけ飲のむ
 あり。和わ堂だう堂だうもあらうらうて。後のちハあらうらうて。後のちハあらうらうて。後のちハあらうらうて。後のちハあらうらうて。後のちハあらうらうて

り鳴呼ききて語つておぼしき入つて拍羨する者もあり何んぞここと人
 賺らば疵めよとひさびさ突つてひいて議らるもあり其中に我は口をついて嘗平
 りのやうなふらふら課係と今の物徳を花て思ひ出さる事あり所ナ
 んとて吹くとも盃と持てて舟中膝行方村長が二席之徳倉も
 ねは通ひて世間の事誠然に世も今様の様ごと好くよく利口も
 若者も嘗平に向ひて落着つていや。其評の陰徳もつてつて疵
 福授り給ひつていふ兼て音もつてつてぬ世も同我も何事津津も疵
 らん見付て福へあんと。日次公も愁て雪津津も疵とて疵り歩けりも
 する物も出合に公前襟程も去年の陣まごころ市場より帰るに社
 社の傍る丘の崩よんがまら居るおあり雪ゆき透しこれに疵疵見あつ
 正事こそは方向とれと疵母を疵くしてやとらそそ寝て寝ひも疵

て捕へてよく丸ね。左程の落睡て居るが。本意あきなり。そ
 もあれ足もは。本の陰徳もつて思ひて。おやつが海津計吉の仲
 押もめくして。お行も死づく。苦もさうと。同バ細き疵とて疵り
 時よ首も纏つけて。赤も如平ゆて。も。定。固。結。裏。ま。赤。膚
 くて。脊。腹。残。り。も。暖。を。遣。う。れ。バ。疵。ら。て。涎。と。ま。り。て
 疵。一。腹。教。と。ま。り。ん。打。て。ゆ。り。る。今。は。は。疵。ら。た。り。渠。前。ま。り。て
 額。突。て。疵。は。祈。言。や。う。つ。ひ。も。ハ。和。狸。よ。う。さ。ら。め。け。け。力。も。目。一。つ
 かる。童。も。化。眼。も。あ。り。入。り。も。ま。ま。り。て。疵。通。の。物。も。音。も。味。え。て。死
 び。も。我。も。助。ら。れ。て。疵。ら。お。お。さ。び。も。陽。結。も。給。一。砂。金。も。疵。多。放
 美。目。佳。女。房。も。二。三。人。授。給。南。毎。獨。り。か。の。婿。も。れ。居。居。行。は。説。き
 疵。も。か。ら。り。尻。の。あ。り。疵。金。袋。も。疵。た。る。や。う。ぬ。り。て。疵。も。合。せ。て。元

来て。我完と喰ひをわして。死に死なれば。是と見守者。然れば。渠奴先
 年街道の馬道。在り。修行者の彼堂銀と欺。三取。夫と根。之
 根を代買。質と取。許多の之と虐て。非道。富る。之のるれ。彼斗の報。か
 くて。や。又。懲心。多。識。り。る。の。口。を。不。良。に。け。り。て。有。車。が。妻。に。既。に
 四十。歳。に。近。く。し。て。夫。に。後。れ。家。と。後。る。子。子。を。お。め。独。り。る。れ。日。に。こ。そ
 物。情。を。て。邪。見。な。れ。速。に。心。弱。ら。や。あ。る。き。度。男。厨。女。を。下。ら。る。び。て
 在。り。る。ら。ら。と。愁。傷。の。又。も。と。び。り。や。折。り。を。な。す。弱。く。涙。脆。く。て
 ハ。厄。法。師。の。出。入。て。多。の。費。り。物。を。今。に。返。ら。ぬ。死。骸。ま。う。る。ま。錢。と
 費。し。て。行。く。せん。家。と。肥。し。孫。子。を。養。り。て。も。先。立。る。人。も。折。り。と。不。さ
 り。曉。バ。灰。埋。り。ま。し。る。物。を。惟。衣。一。重。も。り。情。や。積。鼻。禪。一。筋。ハ。其
 て。も。あ。る。ん。六。文。の。錢。ま。で。も。車。の。如。く。ま。ら。し。て。今。貸。付。ハ。日。毎。の。豆。ま

て。一。年。が。経。た。ぬ。幾。程。の。金。に。取。ら。る。眼。の。前。の。雨。粒。と。れ。ま。て。目。に。入。る。ぬ。地
 獄。と。思。れ。返。音。法。師。を。ら。ら。り。我。の。塵。土。も。せ。ど。佛。住。在。せ。ば。幾。程。袋
 の。米。も。ぐ。り。初。と。種。を。ま。さ。る。ま。ぐ。の。福。と。ま。ん。と。信。白。の。物。情。の。心。増。長
 して。夫。の。骸。と。ば。り。則。ち。杖。を。斂。男。を。ま。り。あ。ら。せ。自。ら。ま。れ。引。添。て。彼。植
 料。を。ま。到。り。葬。の。料。と。後。の。沙。米。と。お。ま。え。を。え。て。押。お。た。れ。ば。骨。子。の。信
 ぶ。も。て。世。斗。の。長。者。の。葬。式。は。是。ハ。何。も。ど。く。不。清。願。の。い。ひ。な。れ。も。虚
 辱。と。洗。し。ん。も。交。ら。ぬ。哀。念。佛。と。成。る。と。傍。ら。て。師。の。法。師。も。ま。り。喜。れ。ば
 老。僧。ハ。骨。平。が。生。涯。慳。貪。員。少。く。於。終。の。際。は。三。法。儀。を。相。と。駭。り。し。り。と
 呻。及。び。て。孫。衣。を。て。施。物。の。多。少。も。拘。は。葬。式。の。如。く。死。行。ひ。行。衆
 陵。消。滅。の。乃。と。て。仏。事。終。了。と。あ。ら。れ。る。骨。子。の。法。師。系。ハ。布。施。を。以。て。經
 又。取。へ。し。と。こ。よ。く。嚇。み。か。ら。洗。り。積。果。て。亡。者。が。後。世。の。福。め。あ。る

この室の
伏見白性
その名は
眼を
ふくむ
白

都物語卷之一



圖物語卷之一



七

大さくど 慈さる。妻海て後弟平が後家。任傍に討ひて中も俄あるやうに
れど。夫死てまゝ外に跡と継ぎ子休あり。年来の編み世中子とて思ひ定
て上を立つ。憐圓なれど。抱て喰今度し給るべし。圓が男より暮れも
違へて子休まもも産せしむ。其内一人の渠が代りて又もなると分れと
減ぬ教よひひを。傍に中居る中子た。ほらよろ頼傍しと思ひとられ
ば。善く取まよえ善て何ぞい女も一度仏門に入ら者。親甲斐も俗
こそん。己のまか。可也や。穂し圓を。地獄の底に墮さんとするる。
渠奴そくび実て退出せし皆立ちると。在俗不當の輩と相手よ。何とて立強
ぞく割して。任傍に膝をく圓と呼ぶ。老眼は涙と流れて。やうに汝七葉
うて初て我山を参り。今年既十二葉。七葉が同じく我う久同子。暇
く。然のま。び款量となく。書讀みと好つれば。内典は。もいと。和漢

のゆのる。狸とも大さく。意得つらん十五葉。もろろあ。及。蝶とて。法作と
か。ゆりく。我育とも。徳んと思ひ。捉つと。宿縁や。流るらん。今まどとく
家。は。鏡目の子ありとて。母の強て。迷ま。と。何いん。作。出家。の。雛形。網
奉親。而。内。懐。其。孝。と。と。う。か。る。理。と。沙。母。示。し。の。牛。の。前。に。奉。と。擇。る。と。て
珍。り。併。ぎ。無。縁。の。衆。生。難。度。と。の。給。ひ。ま。不。然。今。う。家。を。ぬ。り。又。の。跡
と。用。ひ。母。の。志。と。安。ん。と。へ。但。り。汝。を。告。ぐ。と。わ。る。壹。山。の。初。う。目。を。屬。て。執
視。又。避。難。さ。劍。難。の。相。あ。り。出家。を。し。ま。と。く。難。う。と。今。う。向。依
る。と。よ。も。終。に。逃。る。同。補。と。と。思。ひ。思。く。成人。の後。勉。て。陰。德。と。行。べし。
然。ら。万。一。も。免。る。る。の。り。と。出。家。と。遂。に。ぬ。宿。業。の。世。と。思。ひ。公。不
程。と。難。し。と。ひ。て。離。別。の。涙。は。咽。れ。られ。圓。も。年来。の。隙。恩。と。思。ひ。墨。小
ハ。保。ぬ。振。袖。と。緋。ゆる。り。と。役。り。つ。支。分。る。ぎ。亂。色。も。う。打。伏。て。泣。き。り。

下刀書...

母は生質とらう、友者の佛束の長坐をり、引續き老傍の昔言は倦
 果て坐睡して在りしが、今日も暮ぬと、入相の聲、眼と睜て、圓が
 押着る振袖と、不用の縁、汚もどると、引放ちて、寢ちしを、再住傍よ
 對ひて、顔は似合ぬ、返徒笑ひ、かぐ。是を他と、起て、憐れを、ほひつれば、憐
 げ、餘波を、と、あつても、る、然、憐れを、ほひつれば、夏夜、の、衣、さ
 こ、ね、投、多、の、給、つ、り、ま、は、年、未、昼、に、汗、時、少、き、離、れ、は、お、も、夜、中、暖、と、只
 虎子、あ、と、せ、り、ま、宮、仕、中、つ、切、は、美、賜、り、て、長、さ、は、色、と、仕、と、せ、と、
 吟、呼、ぶ、つ、り、は、る、僧、も、然、思、ひ、つ、り、ま、と、は、後、の、後、を、あ、て、て、を、て、程、足
 り、す、も、欲、さ、物、あ、り、お、は、必、ま、あ、そ、や、り、と、あ、り、お、さ、に、圓、か、さ、に、泣、け、り、
 母、は、初、め、あ、り、て、魚、を、あ、つ、り、ま、姫、も、今、う、ら、か、る、て、夫、の、跡、と、う、ら、ひ、を、思、ひ
 る、い、と、圓、か、今、か、り、成、人、に、な、る、と、い、つ、つ、ひ、て、然、も、さ、ら、ぬ、が、涙、涼、う、ま、

いよ、あ、り、れ、は、前、の、石、を、給、へ、り、お、ひ、ら、う、給、つ、り、て、袂、ゆ、衣、も、お、ひ、て、お、ま
 と、ら、り、ま、自、然、と、金、佛、の、中、に、お、り、て、飛、ち、あ、り、ま、り、ま、や、竹、を、え、と、圓、栗、の、や、も、目、と
 ち、か、と、さ、て、り、は、せ、ま、虚、言、と、い、ふ、ま、り、ぬ、因、舎、法、所、の、然、も、や、ま、衣、ま、び、て、お、ま
 觸、ぬ、引、き、て、法、を、ゆ、を、衆、生、の、あ、る、ま、綾、錦、の、衣、と、も、情、し、む、べ、お、ま
 と、即、着、ら、れ、り、空、が、條、の、布、小、袂、の、縁、か、と、ま、り、と、ぬ、ま、て、給、び、ら、れ、バ、
 裁、や、返、し、は、花、の、中、に、取、り、と、圓、に、耻、し、と、思、ひ、居、り、ま、り、日、も、暮、る、ま、
 む、と、引、立、て、脚、の、僧、に、睨、み、を、せ、は、電、を、て、ま、り、と、つ、お、ま、と、男、女、は、約、の、り
 て、肩、ひ、れ、圓、に、お、ま、も、父、の、新、墳、に、詣、で、水、も、向、衣、奉、り、又、爰、と、も、お、ま、と
 きて、お、ま、り、と、衣、の、土、も、成、も、あ、り、ぬ、空、氣、者、ま、織、に、法、所、育、り、ま、り、往、り、相
 の、用、ま、立、ま、り、と、ま、り、と、吃、り、背、て、引、連、休、屋、へ、向、り、る

伏屋の里に母本

とゆへては泣き流るるを。荒れぬく振放して。睨つけ。已由利立止の物
二つて。もそれ。吼づら。く。若く。若く。於て。男ハ。公。肝。志。く。妻子。も
涙。脆。う。め。こ。と。ド。れ。云。甲。斐。る。こ。孫。子。遠。く。て。幾。許。の。回。如。あ。く。さ。は
より。我。独。百。二。百。を。も。存。命。居。て。控。法。金。と。殖。ま。り。れ。や。れ。已。昔。よ
今。争。今。何。方。も。失。上。と。て。中。も。も。指。て。泣。泣。と。娘。の。顔。髪。と。も。さ。さ。く。
い。で。く。と。小。さ。か。る。若。り。ま。や。も。世。食。分。ぬ。べ。一。段。所。ハ。借。ま。か。ら。ま。て
見。わ。り。の。勝。う。の。事。二。思。ひ。て。大。刀。月。と。押。ま。り。て。ま。け。心。と。孫。子。を。喰。給。今
の。種。刀。月。の。つ。ら。五。法。へ。容。件。と。最。不。眼。病。と。う。に。唱。え。怒。り。と。衣。り。孫。子。を
全。肝。火。の。熾。盛。せ。る。業。力。之。を。是。と。中。考。れ。肝。本。悔。脾。土。脾。固。肝。旺
し。つ。ら。症。之。よ。く。せ。ば。産。後。せ。れ。と。治。せん。期。門。之。灸。と。え。三。黄。湯
二。法。後。と。加。味。と。ま。ま。下。し。と。む。れ。刀。月。ま。と。毀。所。と。睨。之。居。て。晴。ま

事。之。切。者。敢。て。口。叩。く。野。巫。原。を。ね。よ。る。ま。り。口。入。く。後。悔。も。己
如。じ。と。思。ふ。日。来。我。山。林。入。て。黄。蓮。一。州。辛。く。盜。ま。搦。く。遠。ま。乞。り
返。り。給。然。も。あ。く。は。一。郷。の。内。と。追。拂。ま。ん。罵。る。時。二。段。所。伏。目。を。あ。く。て
ま。り。が。又。何。る。と。云。邪。ま。ね。ん。と。産。を。立。て。急。ま。せ。く。其。後。馬。を。飛。ぶ。る。が
よ。く。懐。く。ら。ま。や。子。孫。と。二。度。を。ら。く。澄。と。越。ま。つ。つ。幸。じ。て。家。を
く。ま。れ。と。毀。所。倒。れ。び。と。い。ま。り。自。ら。利。口。を。居。る。と。長。者。ハ。母。刀。月
の。機。嫌。損。ひ。つ。る。と。返。り。思。は。れ。て。怨。角。を。控。く。之。遠。く。病。部。を。妻。も。も。く。り。三
葉。も。く。れ。は。心。中。に。秘。仏。と。念。う。て。妻。れ。降。る。十。四。五。葉。も。う。ん。と。妻。を。命。延
し。も。孫。は。病。癒。し。め。孫。を。立。つ。者。病。と。り。弓。石。ハ。祖。母。刀。月。の。目。と。ま。ひ
母。の。病。が。来。よ。く。思。ひ。来。て。控。接。も。日。は。活。く。輕。母。ハ。な。り。れ。我。さ。ん。と。地。換。ひ。て
傍。に。伏。て。母。の。後。と。教。え。引。被。て。涙。珠。入。ま。る。と。病。者。ハ。若。死。て。抱。り。ま。痛

へり一舟の草子と一筋我儀よりねん思ひあがり然る態りせ今月と
 徒らよこしつる偏しきよと母の目と掠る罪ありも憐れ何れ
 人よ施す結句ハ西祝の喜提も成妻がるもなる成さんと思ひ定めて
 武内母刀自の移居と又併し信行の物海のついでよひ出らる我我幸又母の
 多年の丹情と田畑多く山林を平戸候よりいしとて年々豊豆画あり水
 早若志づくあふ倉庫空しく人然れば商人も農不如工工不如商と
 こてやられ化員殖の術凡高は増こあはれ何れもあれ人乗る時ハ我あり人
 取財ハ我手揚く買て米く賣成高とあること速くても年々の考由は
 撥らハ今表家の門前も業物も店をさき京鎌倉と得意して我ハ谷
 本根草根本皮と法は換は定まらる活計ハいひびや何れも能極よ
 巴也相は疑い深き母刀自も飽きて百得ありしてて夫又服を晒してて

の本根とわけても老は渡り来り親子といふを多く金銀と利
 是より親をうり是より七木の定を利是と又商の權あり
 小乗用と我方又納むべし所も不法のこころをそと券うりてなり長者
 ハ仕得て我種店とあるは病者も業と絶し貧人ハ材とある
 てあつ陰徳と行ひらるる種多妻の三周よりいれり大と提へる妻小
 より寂莫村の地蔵舎も積るる里離の並木あり雨とさるる松の
 本條三方よ子儀のさるるわけを啼きしれ物さるる衣れは中かこ
 れて途まき一親てつれ打むけける博打をうんえて志を氣なる者
 共三四ハ芝原ハ棚壁換てをる年の種六七十年あり女児と中も居て世に
 東也否十五ありていふを世利あり及く字也長老きて痛無恨
 の奴原ハ何処の人のを子と肉引し来てハ何方ハ賣海んとさるる

名大磯美濃川へも實れらる親も合致もあつた。表も何れもて我々
 として親あり者も送り送らる。さやつらぐ人句も必竟終つて
 ことそれ代た多く出さる。我れ得るをたふ。恥下し思惟て
 並本の法よめをて思ひも。性事事の傍に事りて其女思我
 買せて代欲き強とせんといふ者もあひやぬ人の事て人買んと
 二纏氣てよりねり。子存らる。思て目口さうて物も。中
 二此年りそ夫多く肥て。而も罪大きき男の列て。膽太氣も。於
 胡中ささる。頬振上げて。然いさる。侍の長者も。是は。さ
 二の妹も。は。以。負。極りて。め。方。も。は。不。便。な。う。後。念。を。の。性。女。も。さ。さ。り。く。
 其。終。り。今。一。度。権。願。せん。思。ひ。て。終。ら。る。是。性。女。徳。便。に。愛。せ。ば。さ。り。く。
 者。が。多。く。の。終。り。も。さ。る。れ。素。人。の。買。ひ。て。大。徳。も。あ。ら。ん。と。思。ふ。も。世。中。も。買。ひ。て。

達しうも酒代持つて。夢もさる。鼻もさる。て。以。長。老。や。子。
 懐の金と出さる。男もさる。今日より。我下婢。後必。遠。記。い
 ひ。そ。い。ひ。持。て。彼。女。思。の。事。と。な。て。は。地。来。と。て。松。陰。と。出。し。は。又。何。事。所。小
 連。往。ら。ん。危。ま。ら。れ。ど。適。二。初。の。男。大。の。思。ひ。も。あ。ら。ん。と。あ。や。り。恐。り。て。傍
 ある人の。手。袋。も。打。見。も。あ。ら。ん。と。思。ふ。切。心。地。も。さ。り。と。地。獄。甚。き。産
 二救。れ。心。地。も。あ。ら。ん。と。思。ふ。並。本。も。さ。る。程。弓。太。ち。り。も。来。て。父。女。使。も。さ。り。と。て。あ。れ
 ら。何。者。も。故。母。の。我。門。持。て。常。二。以。駭。然。ひ。く。性。女。も。さ。り。と。思。ふ。者。も。あ。ら。ん。
 氣。さ。る。者。の。福。も。さ。り。と。思。ふ。彼。女。思。も。又。思。ひ。出。て。終。へ。つ。泣。如。は。を。さ。る。者
 二右。左。も。さ。り。と。思。ふ。是。夜。も。並。本。も。さ。り。と。思。ふ。今。さ。る。と。さ。り。と。思。ふ。二。女。語。り。持
 祖。母。刀。自。ら。ま。す。て。弓。太。ち。口。か。た。め。て。ゆ。り。亦。あ。ら。ん。と。思。ふ。は。女。使。何。國。の。者。ぞ。親
 の。名。も。さ。り。と。思。ふ。口。太。ち。口。か。た。め。て。痛。く。物。性。も。さ。り。と。思。ふ。先。家。も。連。向。り。て。也。

繪冊子をぐんて。弓太くひつて。母も乃と迷ひ居る子と。親里
 字をく送るやん。とて。連來つる。に。中。おれ。例の。後。腕。さう。る。た。感。思。と
 つれ。來。て。一。斤。餉。の。飯。費。や。さ。う。と。憤。り。居。る。其。夜。さ。う。て。長。者。子。信。の。持。び。居
 る。あ。ま。う。て。河。原。さ。う。と。さ。物。も。今。も。親。里。若。う。と。其。侍。さ。う。送。る。さ。う。と。一
 也。何。の。て。彼。あ。ま。う。引。れ。ま。じ。ぞ。さ。再。び。夜。に。け。女。見。ま。附。ふ。か。ろ。い。流。り。や。ふ
 哉。後。の。因。り。致。松。の。お。の。の。者。さ。う。と。名。と。バ。小。仙。と。て。父。母。も。あ。り。母。の。信。の。い。や。さ。う
 流。父。と。於。免。と。あ。り。と。里。人。の。ゆ。び。れ。ら。ふ。ま。さ。う。と。向。ま。強。し。と。者。の。子。と。も。あ
 り。ト。も。か。ん。れ。ま。ま。野。の。群。約。と。加。賀。漆。う。さ。ま。ぬ。と。さ。さ。う。と。お。彩。の。顔。顔。漆
 の。希。さ。う。と。灯。地。さ。う。ひ。て。お。つ。ひ。居。る。口。り。と。あ。ん。さ。う。と。眉。の。あ。り。お。さ。う。と。眉
 ば。さ。う。と。流。さ。う。と。さ。も。中。く。不。美。う。失。う。と。妻。ま。家。さ。う。と。何。さ。う。と。つ。ん。と。さ。う。と。夜。に。さ。う
 り。と。親。里。尋。ひ。ま。さ。う。と。使。り。ま。さ。う。と。物。や。お。さ。う。と。人。の。懐。り。親。あ。さ。う

い。る。さ。う。と。積。と。取。り。て。定。母。の。祖。母。の。母。う。り。持。持。今。も。お。さ。う。と。女。の。守
 る。れ。ば。標。よ。懸。て。あ。れ。と。前。日。松。の。山。家。と。ま。さ。う。と。異。更。移。ひ。行。く。と
 縁。立。し。も。賈。母。の。孫。は。せ。物。さ。う。と。何。の。お。れ。を。何。の。ま。へ。往。と。い。ま。さ。う
 糸。へ。結。と。鮮。衣。着。て。父。母。ま。お。連。出。と。娘。友。と。ま。さ。う。と。さ。う。と。走。り。先。を。走。て
 行。つ。と。柳。と。舞。つ。と。さ。う。と。さ。う。と。さ。う。と。中。と。然。も。面。白。さ。う。と。お。難。は
 音。の。い。れ。ば。ん。も。何。と。ど。溜。入。て。見。居。る。が。こ。と。と。面。白。く。舞。あ。り。と。あ。れ
 又。と。さ。う。と。母。と。さ。う。と。流。の。方。と。見。返。う。と。さ。う。と。小。お。い。さ。う。と。初。と。驚。て。彼。方。さ。う
 尋。れ。と。親。を。の。親。も。ん。え。ま。さ。う。と。急。と。悲。し。と。て。急。泣。つ。走。り。廻。る。あ。さ。う。と。昼
 お。前。の。物。の。給。ひ。一。疋。大。き。さ。う。と。男。の。来。合。て。中。ま。さ。う。と。河。原。の。親。を。さ。う。と。お。難。は
 彼。不。在。て。待。ち。ま。さ。う。と。お。女。の。道。と。分。れ。て。後。より。さ。う。と。待。て。一。度。と。來。ま。さ。う
 又。作。せ。つ。れ。と。さ。う。と。い。ざ。く。と。て。脊。さ。う。と。向。れ。と。遠。ま。さ。う。と。お。女。の。親。を

今、後國
 松の山家
 於虎の虎を即
 が、飯、行、
 山、山、
 業、を、
 力、を、



虎を毒



於虎大印

備物記卷之一

十九

ときどき一羽着の爺やとくして遠ひうらあさ口より老舌とせし
 つ池もよと泣居られん公利乃男おくくも腹三くも成てけ
 奴は鏡しよおるるもさうと白癡者くねくもさ奴よかやま
 隙取ぬ鏡と引さうさくは袋又入れざるの義およびくもて六七年
 振そかりつる親親よびろくひららおゆを返はべきおろくも
 さらりと突放して走り出つおろくも尋道と替く禁よりよ
 年古松と役と違うけらる小家の控さぶきて人住ぬ有り是
 等やともんと立ぬおろくも獵人のさうと又搦て彼公利さう
 てさよめ於免及といえん人やおはるるさうよめ家と指さくこの
 家別ら其さのおりつる家あり。抑えはさ於免及の如音くやうの香
 さうおらぬ我は信濃國屋系け者さうが其さよ不用有りて尋家系

ねと押は家えん人を氣のか。何なる人々何はへおつらう
 微細な散へおくと又官られて特人も目さうら麻と又冬ひて
 心へ慄ぬれぬ於免及身給えんおれあさやさんて其さよ元
 さるべき武士ておれせうが債倍のあやまらうおらひて主人の勤高徳て
 浪人さう。我軍の中麻六といひる者の首其さよ石仕られ者八
 在るに役らまきしてけ三四年先より妻子俱して又隠れ住てお
 せう極めく條大く力強くあもあ。瘡くて裁まきと角能おど
 しても指も高者形一。家名はさう於免及。其さよ持つひた
 口合さるすべさうおひゆりき。然る間麻六男は去年の冬死てい
 心細きやうさうらうら。四五日承えさうの勤高ゆて物系一給
 しては谷地者おれて悦ひ酒のませく。返はるる名姓とさう

が眼入腹とく人立くおひ廻一少か物と蹴決きて俯目と倒れぬは
 時長者ハ湯あるとしてをト一が物と受付て春屋の石口をじ
 取き何のそと外口をす小仙ハおちる箕と投ぎ解り糸引結びマ
 親お赤めて居れば欠六ハ我休るとして其のお着履とを幸いとて頭も
 揚げ扁と着く有り。長者ハ事の根方ふ心持ながらうさぶと空をぬ
 影あく其所に居る小仙はあつば何してうさぶ居ると同人大刀自
 の礎踏て米糈とくおせつれば今給より交うといらふおちひよりぞ
 や。女ハ女の手業こそあれさる助ささの修らう。親ながら悪く癖や
 とおちふとさうでよ小休屋ハ人のつうひやうあつば家と世回をわつと連
 れも代の欠六が知りさらば其の着らうささせと物を欠六ハつごおちと呼
 べてふと憐れなれど愛もいされは我と入れられて打身初くと其承よ

春くおハ何ぞ。蠶家下の蟻蝻とや忍びや在と告ん見ももも老若が
 離の際に完承と笑て立ちあふ小仙ハ胸せつづハささるさあまこととも
 可憐なる若人の癖とく。文堪ハあつば春屋と遊物と後ささるさあまこととも
 りて笑ひたり。女ハ主人ハ守らうと昔ハれば箕おちうさう終とく。
 四這く小暗き方ハ這還ハ長者も可憐と念とて移て其所に立法が
 是より小仙が弓たよ二重心あまを知り。然も仰合とて問されは後ハ嫁
 といとせんといひきめていとも幼りきけ。欠六ハ是を知りていさくむく
 りとや。彼女がや。斗りおとす。我をたがぬハ弓たよと交合ハ之夫と
 知りながら割とよせぬ長者殿も撥らふ。いさくやつら。中と引放ちて
 んと格とよまひ思しりれど。又かろふよぶさ人もあるそその年も若より。
 明け建久四年之春夏の程に鎌倉の前右幕下
 源頼朝公 當國法圓山の

福野を待せさせ給ふらるる河津有が睦月の未植科の領主海野小太郎
幸氏の許（長者圓太夫より）孫きて幸氏を中にされりい兼て安ら通り
いよく尚更ハ鎌倉殿三系軍系を待念と覚悟んとの河津は定りぬまは然
てハ到率の僅量ハ汰餉の儲かんと庭弱の幸氏より一つととき誰一ひと
又是下と教なる相構へて助力給りしと然も余儀ありきされ長者
畏りて世々の竹さの如く中に孫文鎌倉殿の所料の由儀仕らんハ後代の耳目
とて是の上と御鑑へも折らうしては顧りも給らりける牌弓太と性ハお持参
よりつて大お家の由儀侍の教ももつらさせなやと幸氏神仏も御鑑を
斯る御家の先真意を叶ひしる振も是之と悦びしこそは由公事より以
親の如くハお務りべきとせいと寂れ毎一々言請てくれ幸氏も大に悦
び子息の事ハ折らうと某涯分る折中一人足も彼も来らるべきと公

後ハ小酒ひとら志れとて新糸の目代日下の軍字とらる若者と申出
て相もと女子とも子て砂ら幸氏ハまこと奥より入られ長者も
打甘きて軍字と砂られば竹年の福ハ廿四五年来て候もく賢つき
よく教か一面長と色白く容許とて若く風を公のわらふとて又
る亦ハ月代形なる酒宴も能別て席面白く強殺られ長者ハ
後懐比捺の蓋と額と高く坐し眠と僅らるる酌又立る女の如く月
ごらハ皆しと難しと思ひ居つと更科の伯母の孫よりけ不し淨
館小身の暇願ひ出て親もみんき老人の妻とせんとい越つるか腕
膾て綱束居れど頻りふつと煎揉れればハせんよとや皆し
別れももも必らけ又放ち給ふとて軍字と纏り侍て悲び
又位ハ男も打ひをきてさなるる更科の山乃林と長居をなやと

ては物まじりかき^{まじり}あはれ^{あはれ}家よりも子^こ若せん^{若せん}かを合せて^{あはれ}益^{えき}ま
 上と耳^{みみ}口^{くち}せて^{まじり}咄^{うた}き居^ゐ研^{けん}ん^ん化^けやま^まと^とり^りん^ん懐^{なつ}ふ^ふも^もさ^さ入^い
 までまれば女も身^みのあ^あら^ら勞^{らう}紅^{こう}ありて^{ありて}ぞ^ぞ女^にが^が寐^ねこ^こた^たる^ると
 傾^{かた}ひ^ひつ^つつ^つや^やぐ^ぐて^て男^{おとこ}の子^こと^とり^りて^て麻^{あし}下^のの^の方^{かた}へ^へ出^いだ^だれ^れば^ば長^{なが}衣^えを^をけ^けて
 眠^{ねむ}りの^のえ^えさ^さら^らる^るま^まも^もて^てき^き一^{ひと}伸^{のび}して^{して}二^{ふた}尺^{しゃく}や^やぬ^ぬぞ^ぞ衣^え一^{ひと}つ
 と^と独^{ひとり}言^{ごと}い^いあ^あら^らる^るま^まら^らび^びひ^ひつ^つ立^{たち}ゆ^ゆり^りて^ては^は物^{もの}場^ばの^の儲^{たくわ}い^いも^もを^をひ^ひと^とり^り
 い^いま^まさ^さり^りか^かん

月宵鄙物語卷之一終

十四
 十五
 十六

